

平成22年度 追跡評価書

研究機関 : 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ

研究開発課題 : 高度ネットワーク認証基盤技術に関する研究開発
(オンデマンドVPN技術)

研究開発期間 : 平成 16 ～ 18 年度

代表研究責任者 : 技術開発本部副部長 山本 修一郎

■ 総合評価

(総論)

研究開発案件として、成果もしっかりと出ている上、実用化段階にあり、有意義な研究であったと言える。難をあげるとすれば、適用範囲が医療分野のみであり、ユースケースを十分に検討し、実用化する際の市場性、タイミングを鑑みることが求められるのではないかとと思われる。

(コメント)

- 必要十分な技術をきちんと確立して、一部ではあるが実用にまで持っていつている点は評価できる。
- 素人にもわかるように説明するなど、さらなる営業努力が求められる。
- 安全性、信頼性を可視化できないか。

(1) 科学的・技術的な波及効果

(総論)

IPsec-VPN を組み合わせたオンデマンド VPN の優位性に関して、HEASNET の会員企業と検討し、「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン(平成19年2月)」の実装事例に関する報告書がまとめられ、厚生労働省の「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第2版(平成19年3月)」から参照されている。このことにより、ヘルスケア分野に対して、ネットワークの技術基準の提供を行ったと考えられる。

また、医療機関におけるネットワークのセキュリティ分析結果に対する利用技術として、オンデマンド VPN が挙げられ、ISO TC215 の TR(Technical Report:技術報告書)として採択される等、効果を与えているものと考えられる。

(コメント)

- 確立した技術については、部品としていろいろなシステムに適用できると考えられる。
- 科学的・技術的新規性があるなら、医療以外の分野への応用も検討すべきである。

(2) 経済的・社会的な波及効果

(総論)

セキュアなネットワーク基盤として、医療業界に対する働きかけを行っており、具体的に複数の事業者で医療機関向けレセプトオンライン接続サービスが開始されており、社会保険診療報酬支払基金の IPsec+IKE サービス提供事業者として指定されるなど、社会的に認知されつつあるものと考えられる。

(コメント)

- 将来的には、稼働率の高いシステムに成長することが望まれる。

(3) その他副次的な波及効果

(総論)

類似サービスを行っている、NTT-PC コミュニケーションズ、富士通との研究連携における相互接続実験で、複数企業による相互接続性を確認したことにより、携帯電話キャリアのように相互通信ができることが確認され、ヘルスケア分野での安全なネットワーク基盤の普及・促進が可能になった。

(コメント)

- ここで開発した技術は今後、プライベートクラウドなどのシステムに利用可能であると考えられる。
- 上記の場合、安全性、信頼性がどの程度保たれるのか、説明が必要である。

(4) 政策へのフィードバック

(総論)

全体的に見て、計画通り進んでおり、既に実用化段階にあることなどから、意義のある調査研究案件と言える。

ただ、商用化や海外展開に関する更なる十分な検討が行われていれば更に意義のある調査研究となったものと考えられ、その点が今後の課題と言える。

(コメント)

- 今回は、既存技術の組み合わせにより、新しいシステムを構築した。そこには、理論研究が入り込む余地はない。
- 今後は、理論研究および実用化研究の両方の側面を有する調査研究案件の出現を期待。

(5) その他(広報活動 等)

(総論)

総務省ホームページで本研究開発の成果要旨を公表、HEASNET ホームページ上でのサービス紹介、展示会における展示やリーフレットの配付など、積極的に広報活動を行っている。

(コメント)

-